

地域を知ろう(47) 民話・伝説 No.27 高円寺の天祖神社

高円寺の天祖神社

今回は、高円寺地域区民センター（セシオン杉並）がある、かつての高円寺村と言われた地域の鎮守様、天祖神社を紹介します。

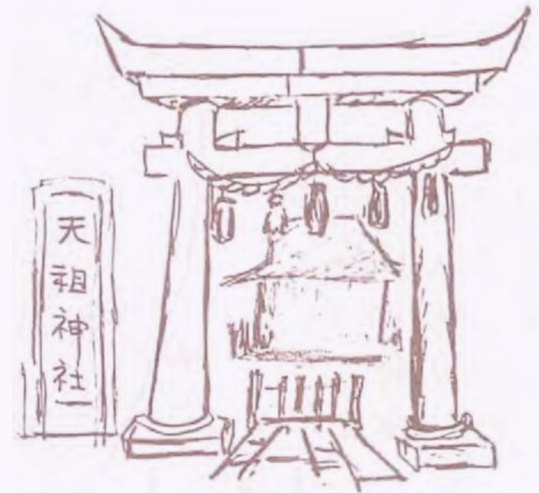
杉三小学校東門のそばの低い地形の所にあり、昔この付近は山谷（三谷）とも呼ばれていました。

高円寺天祖神社が造られたのは大変古く、寛治年間という今から九百年も昔で、堀河天皇、白川法皇が在位し、太政大臣には藤原師実という人がいた頃、ここは都から遠く離れた狐や狸が走り回っていた淋しい農村地帯だった様です。

土地の開拓者がった山下という人が伊勢神宮にお参りをして天照大神の分霊をいただいた、仮社殿に祀るといわれていきます。

今の社殿の内拝殿は、天保二年（一八三一年）本殿とその間を結ぶ幣殿は明治二十一年に造られました。

面白いのは正面の鳥居は明神鳥居ですが、南参道と呼ばれる南側の鳥居は春日鳥居と言



われ明治十四年に奉納されたことが刻まれています。

その他江戸時代に奉納された絵馬五枚は保存状態があまりよくなくて文字など判読できません。

正面の社額には天照大神と彫ってあり、宝永の名があり、將軍綱吉の生類憐みの令など巖

しい時代で、又富士山の噴火したのも宝永の時代です。南参道の脇に手洗石がありますが、これには武州中野、寛文四年の文字が読みとれます。

私共が子供の頃は「おしめさまのお祭り」と言ってお店や芝居などを見に行きました。おしめさまとは「お姫様」のことで、江戸の人は「ひ」と「し」の発音が出来なかったからでしょう。

今この神主さんは当区唯一の女性で、この「ふれあい」が皆様のお手元に届くころには結婚され、お二人で氏子を守ってくれることでしょう。

鳥居の脇に「銀も金と玉も、及びかめやも」山上憶良と書いてありました。